

厚真町の「夢のある英語教育」をめざして ～4月から小学校・中学校にコミュニケーション科を設置～

本町の英語教育は、英語による表現力、コミュニケーション能力の一層の向上を図り、「夢や希望」を持って生き抜く素地として、義務教育を終えた段階で英語による日常的なコミュニケーションを図れる英語能力を身につけ、様々な場面で英語を活用し、豊かに自己表現を図るための基礎の育成をめざします。

教育課程の特例に係る授業時数の認定

学年	昨年度まで		今年度から	
1年	英語	15時間	英語	34時間
2年	活動	15時間	活動	35時間
3年		25時間		35時間
4年		25時間		35時間
5年	外国語	35時間	コミュ	50時間
6年	活動	35時間	ニケー	50時間
中1	総合	30時間	ション	30時間
中2	英語	35時間	科	35時間
中3		35時間		35時間

そのため教育委員会は、この4月から文部科学省の教育課程特例校の認可を受け、左の表のように、小学校1年生から4年生までの英語活動の充実を図ると共に、小学校5年生から中学校までにコミュニケーション科を新設しました。

コミュニケーション科は、厚真町の「夢のある英語教育」のめざす姿として、目標を次のように設定しました。

- ①「コミュニケーションをとりたい」という心と態度を育てる。
- ②その心と態度をみとすための、英語のスキルを身につけさせる。

「コミュニケーションをとりたい」という心と態度の育成

コミュニケーションしたいという心を育てるために、様々な形での情報の授受の機会の充実を図ります。中学校でのAPR（厚真PR）活動や小学校の厚真プロジェクトの活動では、当初は、「厚真のことを伝える」「自分のことを伝える」と情報の発信を中心とした活動でしたが、コミュニケーション科においては、情報の授受をめざします。

6月4日、5日と両日にわたって行われた中学校のAPR活動では、厚真のことを伝えると同時に、聞き手の質問や疑問に答える形で、より豊かに厚真のことを伝えていました。

このような経験を積み重ねることが「コミュニケーションをとりたい」という心と態度を育てます。



6月4日、5日に実施されたコミュニケーション科のAPR、情報を発信するだけでなく、質問や疑問に積極的に答え、やりとりを深めている

コミュニケーションのための英語のスキルの育成

コミュニケーションのための英語のスキルの育成をめざし、小学校では、27年度からEタイムを設定しました。Eタイムは増えた英語の時間から10時間分を活用し、普段の英語活動などの授業とは別にほぼ週1回15分ずつ英語にふれる時間を設定しました。

教材には、英語教育推進コーディネーターの根岸教諭が中心となって英語教育推進委員会の小学校部会の先生方が作成したDVDを活用しています。



Eタイムで、DVDの中の嶋山先生とエレン先生の電話での会話に耳を傾ける子どもたち